

# 町医者だより

<発行・お問合せ先>

おおわだ内科呼吸器内科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話 047-379-6661

おおわだ  
内科  
呼吸器内科

令和05年09月号

## COPDと心不全

町医者だより令和3年11月号に「ファンタスティック フォー」というタイトルで心不全について話を書いています。その中に心拍出量の低下する心不全をHF r EF (ヘフレフ) とい、心拍出量の低下を伴わない心不全をHF p EF (エフペフ) と言うことに触れています。今月はHF p EF (ヘフペフ) と肺疾患、特にCOPDとの関連性です。

### HF p EF (ヘフペフ)

心拍出量の低下を伴わないですが心不全はあります。しかしながら、35%しか労作時の息切れがないようです。確定診断には運動負荷によって左房圧が増加することを心臓カテテル検査やドップラー心臓超音波検査で確認する必要があります。原因がまだわかっていないようですが、代謝障害が関係ありそうで、ヘフペフになりやすいリスク要因として、高齢や高血圧以外に糖尿病、脂質異常、肥満が挙げられています。

COPDは肺気腫と慢性気管支炎の総称で、慢性閉塞性肺疾患の略ですが、日本呼吸器学会もその名称の普及に努めていますがさっぱりです。国際的なCOPDの治療ガイドラインにGOLDというものがあります。COPDはかつては喫煙によって引き起こされましたが、さまざまな要因があると2023年版でも節に訴えています。そうはいつても薪で煮炊きをしていない国ではやはりタバコの影響が一番大きく「タバコ病」の名称で十分です。喫煙はこれまでも発がんのリスクだけではなく血管病変—脳血管障害、狭心症、心筋梗塞などのリスクを増加させることが分かっていますので、当然COPDが心不全のリスクになることは想像にかたくありません。今回検索するとCOPDがHF p EFの病態悪化につながっているという論文(Am J Cardio 2021)や呼吸機能の低下そのものがHF p EFの予後に影響を与え死亡率も増加するとの論文があります(PLOS ONE 2021、Circulation J 2021)。ただ呼吸器内科的に面白いのはCOPDなどの閉塞性肺障害のみならず、間質性肺炎のような拘束性肺障害も心不全に関係していて、循環器内科の先生方が呼吸機能検査の重要性によりやく気付いて頂けたようでうれしい限りです。先に触れたCOPDの治療ガイドラインであるGOLD 2023年版ですが、自覚症状や急性増悪の回数から導く治療選択の分類を4つから3つ(ABE)に変更しました。Aが気管支拡張剤、BとEが長時間作用β2気管支拡張剤(LABA)+長時間作用抗コリン(LAMA)で、Eは末梢好酸球数によって吸入ステロイド(ICS)の併用するというものです。おもちゃのルービックキュービルをガチャガチャといじって色の組み合わせを変えているようで芸がないです。さらに2023年8月15日号のAJRCM誌(米国呼吸器学会誌)によるとB+とかE+という項目も加えるそうです。その+は心臓血管病変を有しているか、またはそのリスクが高い群という意味でその治療も加えるそうです。令和1年11月号の町医者だより「ベータブロッカーとCOPD」でも述べていますがCOPDは循環器疾患かもしれません。COPDの原因の中に先ほども述べた煮炊きに薪や干した牛糞を使用することもの含まれますが、さらに大麻までもその原因に挙げられています。医療用大麻解禁で今後増加が予測されている麻薬中毒患者様を診察できる呼吸器内科医はなんて幸せなんでしょう。